緑のだんち

発　行
帯広工業団地協同組合
帯広市西22条北2丁目23-9
電話　37-3146
FAX　37-3645
印刷／全文舎印刷

『程々の幸せ』

帯広畜産大学
地域共同研究センター長
関川三男

お坊さんの免状を通信教育で取得してから足掛け二年。この間、大学院畜産衛生学専攻の立ち上げに没頭し、昨年末には妻に先立たれ、この春には地域共同研究センター併任となり、七月には約二七〇名の方に御参集頂いたセンター創立十周年記念事業が無事に修了。毎日が修行と感謝しております。

毎年、お盆になると「ちょっと一息」と言った雰囲気が自然に漂ってきます。こんな時は、日常、仕事中に「ふっと」湧いた疑問や意識を整理するのに好都合です。例えば、①大学が果たす教育や研究の使命とは、②それを実現する短・中長期の戦略は、③地域共同研究センターが求めるものと求められるものとの乖離は、④十勝圏の人口を五十万にする方策とは、等々、際限がありません。①～③については、センター創立十周年記念誌から抜粋し下記に再掲させて頂きます。

【帯広畜産大学は、我が国で唯一の獣医・畜産を専門とする規模の小さな単科大学です。建学以来、実用の学問であることを肝に銘じて教育・研究の実績を積み重ね、本年四月に悲願であった大学院博士課程「畜産衛生学専攻」（博士後期課程）が設置されました。現在の本学の目標は「実践的教育の充実」、「世界をリードする研究者の養成」および「地域社会並びに国際社会との連携」で、特に「食の安全確保」に関する教育・研究を組織的かつ重点的に推進し、その成果を積極的に社会へ還元することに努めています。地域社会との連携では、昨年度文部科学省をはじめとし、北海道、帯広市にご支援を頂いた、都市エリア産学官連携促進事業「機能性を重視した十勝産農畜産物の高付加価値化に関する技術開発」を地域全体の産官学が一丸となって推進しています。都市エリア事業は十勝に存立する公設試験研究機関全てを連携した「スクラム十勝」の一つの成果であり、十勝の主要産業である農業・畜産業に係わる先端的かつ独創的な新規事業の創出や研究開発型の地域産業の育成を目指します。

地域共同研究センターは、「十勝から世界へ」、限りある資源の効率的な利用と環境保全を意識した共同研究や地域連携の推進に向けて努力し、これらの成果が将来への投資である「教育」に対して効果的に反映されるべく、贅沢で脆弱な基礎的な研究をも支援し「知」の発信にも努める所存であります。国立大学法人化の大きな荒波をチャンスに換えるためには、機を見るに敏であり、起こりうる危機に備え、組織を強く柔軟

にし、変化を恐れない強さを個々人が身に付けることと考えております。幸いに、地共センターは、現在、学内外のご支援の元にセンター長（関川）、専任教授（渡邊）、産学官コーディネータ（田中）、NEDOフェロー（藤倉）、知財アドバイザー（柴野）、十勝財団支援職員（飛川）、事務職員（千枝、木幡）の人的業務体制が整備されつつあり、変化への柔軟な対応・機能拡充とともに、学内外・地域社会に開かれた相談窓口として、一回の電話・一度の訪問で問題解決の道筋をお示しできるよう努めてまいります。】

ほんの一ヶ月前の文章ですが、こそばゆい感じです。全体として夢が感じられません。大学の敷居を取り外し、自らを曝け出して地域の方々の信頼を得、伸良く発展したい、つまり、「債金」と「愛憎」を除く御相談を何なりとも頂戴できれば望外の幸せ、と心底思っております。

④十勝圏の人口を五十万とするような画期的なアイディアは無いのだろうか？　産業構造の転換と発展を意識したR&B構想は、日本中どこでも必要でしょうが、十勝の歴史、文化、人情を踏まえた構想が何よりも重要です。「スクラム十勝」を中核とした「都市エリア事業」の成果を産業化するようなシステム、例えば総合的な金融支援と資金援助（道・市や金融機関等の密な連携）、十勝圏振興センター隣接地や畜産大学構内への企業誘致と優遇措置、雇用者の通勤・住居対策、知的労働者の優遇措置、地域景観の統一的テーマの設定などのパッケージが短期的には求められています。

何れにしろ十勝の利欠点を、ここに暮らす方々が認識する必要があり、守るものと守りたいもの、の峻別と共通認識から将来構想の論議が始まります。基盤となる人情や情緒、すなわち人々の「信頼と絆」を強固にする教養の涵養が、いつの時代も何れの地域でも最も大切であり急務でもあります。ゴミの多さを嘆くよりも、一つ拾った方が早く、冬の厳寒を嘆くよりも、快い春秋を想う方が遥かに幸せです。「程々の幸せ」を真の幸福と感じることが「自助・共助」の意識を育みます。最近、熟々、疑問に感じるのは、幼稚園から現在まで五十年余り常に「学校」に身を置く自身に、社会的常識が備わっているのかどうか、と言うことです。この評価の良し悪しは別として、いつも「程々の幸せ」を苦言・叱責・芸能・労働などで感じさせて下さる方々に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがたいことです。

最後に、帯広畜産大学、殊に地域共同研究センターを宜しく御引廻し下さいますよう平身低頭お願い申し上げる次第です。

南西方面からセンター温室を望む